

製品名: CD3 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21534**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | 組換えウサギモノクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG,Kappa |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。 |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質 |
| 精製 | プロテイン A |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200 |
| 分子量 | Calculated MW:23kD;Observed MW:23kD |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | CD3E T3E |
| 別名 | T-cell surface glycoprotein CD3 epsilon chain;T-cell surface antigen T3/Leu-4 epsilon chain;CD antigen CD3e; |
| 遺伝子 ID | 916.0 |
| SwissProt ID | P07766 |
| 免疫原 | ヒト CD3 イプシロンの合成ペプチド |

背景

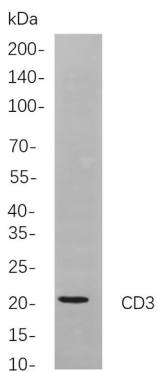
細胞局在: 膜性。この遺伝子によってコードされるタンパク質は CD3 イプシロンポリペプチドであり、CD3 ガンマ、デルタ、ゼー

タ、そしてT細胞受容体 α/β および γ/δ ヘテロダイマーとともにT細胞受容体-CD3複合体を形成する。この複合体は、抗原認識と複数の細胞内シグナル伝達経路を結びつける上で重要な役割を果たしている。イプシロン、ガンマ、デルタポリペプチドをコードする遺伝子は、11番染色体上の同じクラスターに位置する。イプシロンポリペプチドはT細胞の発達において重要な役割を果たす。この遺伝子の欠陥は免疫不全を引き起こす。また、この遺伝子は女性における1型糖尿病の感受性とも関連付けられている。[RefSeq提供、2008年7月]

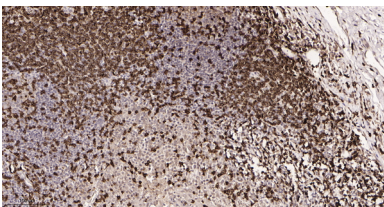
研究分野

-

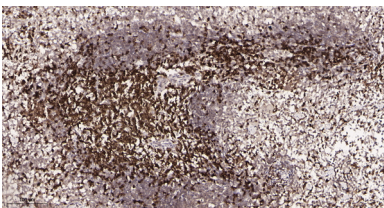
画像データ



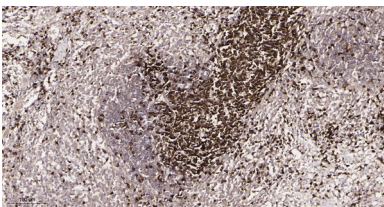
CD3 ウサギ mAb を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。1、CD3 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス脾臓組織の免疫組織化学分析。1、CD3 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学分析。1、CD3 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。